

2018年3月23日

平成29年度3月 学位授与式学長告辞

九州工業大学長 尾家祐二

本日、ここに平成29年度の学位授与式を挙げていただけますことは、本学にとりまして大きな喜びであります。栄えある門出を迎えられました皆さんに、まずもってお祝い申し上げます。また、この日まで卒業生・修了生を物心両面から支えられました保護者の皆様と御家族の皆様のお喜びはひとしおと、衷心よりお祝い申し上げます。

本日、皆さんが、九州工業大学を卒業・修了されるこの機会に、皆さんが活躍する未来と、その未来創造に向けた姿勢について一緒に考えたいと思います。

英国のビジネス誌『エコノミスト』編集部による「2050年の世界－英『エコノミスト』誌は予測する」(文春文庫)においては、「結局私たちは、すべての情報や新生技術が今後どう使われていくか予測することはできない。だが、それらが、いずれ起こる技術改革の土台として存在するだろうということは分かる」と指摘されています。実際、「電球に明かりを灯すために押し進められた電化が、最終的にはパソコンを含むあらゆる種類の機器に電力を供給するようになったのと同様、センサーネットワークや人工知能、データの大洪水もさまざまに利用されて、それらを創造した者の理解も及ばないことができるようになる」ことでしょう。そこで、私達が、過去から学ぶべきこととして、『エコノミスト』編集部は「私たちは未来に対し、大いに謙虚になるべき」であり、「技術は、めったに人間の思い描いたとおりに進化しない」と指摘しています。未来予測は困難ですが、未来を支える技術の種は今ここにあるとも言えます。そして、今ある技術、今生まれようとしている技術の未来の可能性を謙虚に想像しようではありませんか。

さらに、その続編ともなる英『エコノミスト』編集部「2050年の技術－英『エコノミスト』誌は予測する」(文藝春秋)は、2050年までの世界をかたち作る技術に焦点を当てています。ただ

し、技術の影響は幅広い領域におよび、影響力を及ぼす技術の裾野はきわめて広がっていきます。その中では、SF作家のウィリアム・ギブソンの「未来はすでにここにある。均等に行きわたっていないだけだ」という有名な言葉を引いたうえで、技術は「突然登場するようになって、実はそうではない」、したがって、「正しい場所に目を向ければ、明日のテクノロジーを今日見ることができる」、それを「エッジケース（限界的事例）」と呼び、「広く普及する前に、特定の集団や国だけで広がりつつある事例」を探ることが重要であるとの指摘がされています。

その分かりやすい例として、21世紀初頭の日本におけるガラケーとケニアのモバイルマネーの普及が取り上げられています。前者については、「2001年に日本ではカメラ付き、カラーディスプレイ付きの携帯電話が当たり前で普及していた。道案内付きの地図を表示でき、電子書籍、ゲームなどのアプリもダウンロードできた。ジャーナリストやアナリストはそんな電話を見るために日本詣でにいそしんだ」と紹介し、後者については、「モバイルマネーの普及で長らく世界をリードしていたのはケニアだ。携帯端末同士でテキストメッセージを送り合えるように、簡単かつ瞬時に送金ができるのだ。ナイロビでは携帯電話でタクシー料金が支払えるのに、ニューヨークではそれができないという状況が何年も続いていたほどである」、と述べています。これらは、「他国のシステムとの互換性など気にせず、創意工夫することができた特殊な状況」であったり「銀行インフラの存在しない空白状態」であったり、それぞれの状況下において、創意工夫された成果です。今も、どこかで、新たな未来の種が芽を出していることでしょう。ただし、それらの価値を高く評価できるのは、それらを最初に創造した人たちであるとは限りません。私達は、そのようなことがどこかで起きていることを謙虚に理解し、どこかで作られた「種」を適切に評価し、芽吹かせ、花を愛で、それを他にも伝えるなど様々な立場で未来創造に関わることができます。

未来を創造する姿勢に関することとして、次のことを紹介したいと思います。昨年、本学が進めている衛星開発プロジェクトの一つである「BIRDS Satellite Project」が、「GEDC Airbus Diversity Award 2017」を受賞したことをご存知でしょうか。2017年は、18ヶ国45件の応募があり、エンジニアリング教育の世界的団体であるGlobal Engineering Deans Council (GEDC)の年度総会にて、最終候補3件のプレゼンテーションが行われ、「BIRDS Satellite Project」が見事、最終選定されました。この賞は、世界的航空機メーカー、エアバス社がスポンサーとなり、工学教育に多様性をもた

らす成功例を対象とする Award で、今回からは UNESCO（ユネスコ：国連教育科学文化機関）が後援しています。Birds Satellite Project では、5つの超小型衛星が開発され、宇宙に打ち上げられました。それらはガーナ、ナイジェリア、モンゴル、バングラデシュそして日本の5カ国の本学の学生諸君が開発したものです。大変嬉しい出来事でしたし、これに関わった学生の皆さん、教職員に改めてお祝いを述べ、敬意を表したいと思います。そして、私は、この表彰の中で触れられている大変興味深い次のことを紹介したいと思います。すなわち、「多様性（ダイバーシティ）はビジネスの成功においてますます重要な測定基準となって」おり、「2017年は企業幹部の69%が多様性と一体性を重要な問題と位置づけており、その数は2014年の59%から増加」しているという点です。未来を創造する活動において、多様な知を集め、活用することが大変重要になっており、そのことを理解している人も増えてきているということが分かります。

<http://www.airbusjapan.com/single-jp/detail/-6f76c42171/>

<http://space.airbus.com/newsroom/press-releases/en/2017/10/gecd-airbus-diversity-award-2017.html>

多様性が重要であることについては、様々な指摘があります。ノーベル経済学賞受賞者であるアマルティア・セン氏は「アマルティア・セン講義－グローバリゼーションと人間の安全保障」（ちくま学芸文庫）の中で、「過去数千年にわたる世界の進歩は、交易、旅行、思想・知識・芸術・文化の拡散を促すグローバルな相互作用活動によって形成され」たことを指摘しています。

今後、皆さんが関わる技術が、様々な社会活動の基盤になり、影響を与えることになります。皆さんには、是非、人、組織等の多様性を再認識し、多様な知を集め、学び、今の世界から、謙虚に未来を想像し、明るい未来を選択し、その実現に関与して欲しいと思います。

最後になりますが、皆さんが、九州工業大学における多くの良き出会いを財産として、今後活躍されますことを祈念し、皆さんの栄えある門出を心から祝福申し上げ、告辞と致します。本日は、誠におめでとうございます。